

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会による、頭頸部疾患に関する認識調査結果

調査概要

調査日：2026年7月7日

調査パネル：株式会社メディカルノートのメールマガジン会員

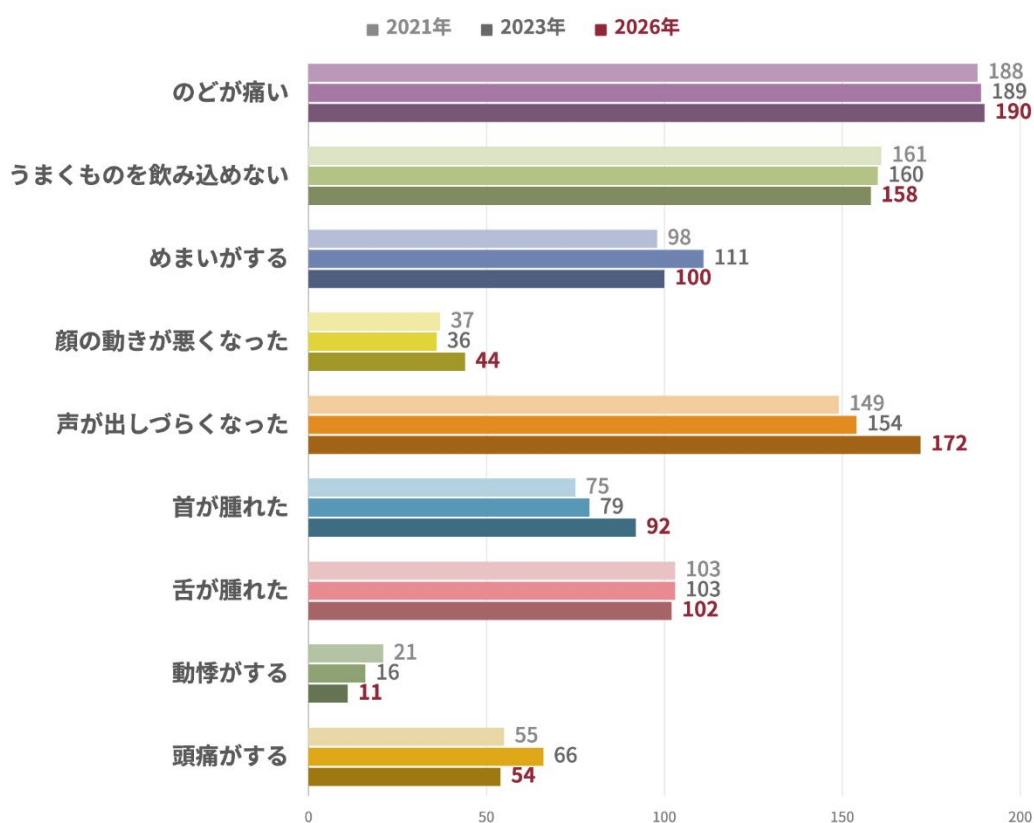
回収方法：インターネット調査

回答条件：18歳以上、非医療従事者

取得した有効回答数：200

Q

下記のうち、耳鼻咽喉科で治療ができると思われる「症状」をすべて選んでください。（複数選択可）



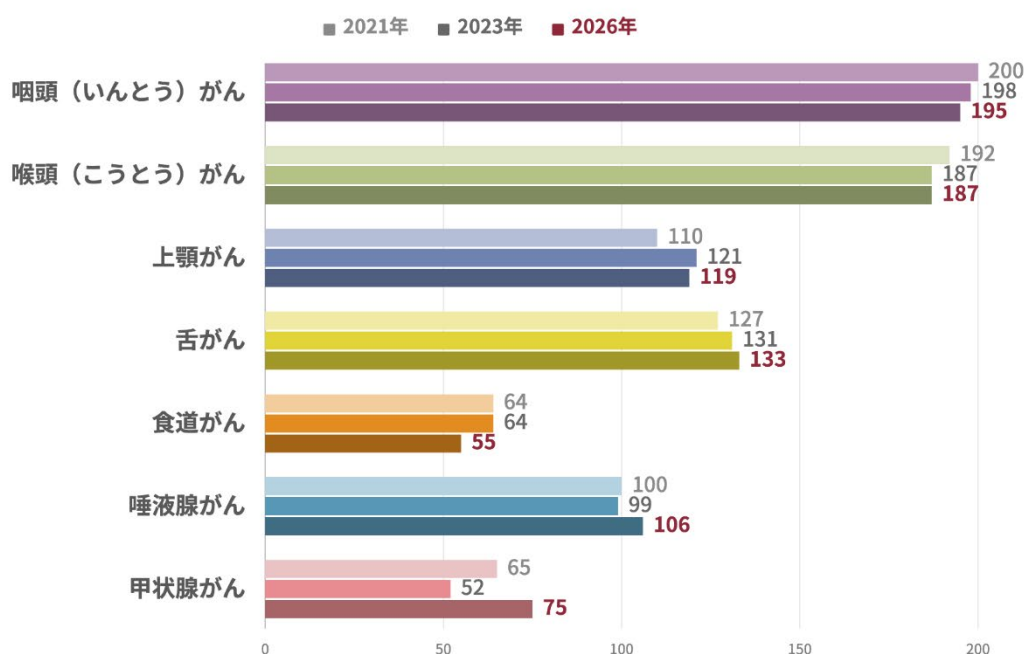
※ 調査対象：Medical Note会員（18歳以上・非医療従事者）n=200／複数選択可

様々な症状を並べ、「耳鼻咽喉科で治療ができると思われる症状をすべて選んでください」と質問したところ、耳鼻咽喉科が専門とする「顔の動きが悪くなった（顔面神経麻痺）」を耳鼻咽喉科で治療できると回答したのは22.0%（第1回2021年：18.5%、第2回2023年：18.0%）にとどまり、過去2回の調査と比較してやや増加したものの、依然として低い認知度にとどまった。「首が腫れた」は46.0%（2021年：37.5%、2023年：39.5%）、「舌が腫れた」は51.0%（2021年：51.5%、2023年：51.5%）の人しか耳鼻咽喉科で治療できることを認知していなかったものの、「首が腫れた」については前回調査よりも認識の向上がみられた。「声が出しづらくなった」は86.0%

(2021年：74.5%、2023年：77.0%)と大幅な改善傾向にあり、「のどが痛い」は95.0% (2021年：94.0%、2023年：94.5%)と高い認知を維持した。「めまいがする」は50.0% (2021年：49.0%、2023年：55.5%)であった。一部項目では変化に乏しいものの、「首が腫れた」や「声が出しづらくなった」については向上傾向が見られており、『首・のどの症状＝耳鼻咽喉科』という想起が強まっていることが窺える。

Q

下記のうち、耳鼻咽喉科で検査・治療ができると思われる「がん」をすべて選んでください。(複数選択可)



※ 調査対象：Medical Note会員 (18歳以上・非医療従事者) n=200/複数選択可

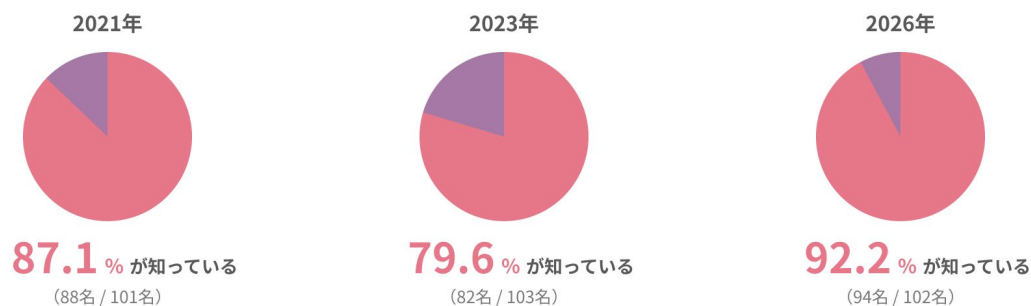
耳鼻咽喉科が治療可能ながんを並べ、「耳鼻咽喉科で検査・治療ができると思われるがん」をすべて選んでください」と質問したところ、耳鼻咽喉科が専門とする舌がんでも66.5% (2021年：63.5%、2023年：65.5%)、甲状腺がんは37.5% (2021年：32.5%、2023年：26.0%)の人にしか耳鼻咽喉科で治療できることが認知されていなかった。ただし、甲状腺がんについては第2回調査 (26.0%) から第3回 (37.5%)に向けて改善が見られ、第1回調査と比較しても5.0%向上した。上顎がんの認知は59.5% (2021年：55.0%、2023年：60.5%)と横ばいであった。一方、咽頭がん (97.5%、2021年：100.0%、2023年：99.0%)、喉頭がん (93.5%、2021年：96.0%、2023年：93.5%)については高い認知度が維持されている。また、耳鼻咽喉科で治療できるとされる症状について質問した結果と照合すると、「舌が腫れた」を選択した人 (102名)のうち、舌がんが耳鼻咽喉科で治療できると知っていた人は94名 (92.2%)と高率であったのに対し、「舌が腫れた」を選択しなか

った人（98名）のうち舌がんが同科で治療できると知っていた人は39名（39.8%）にとどまった。

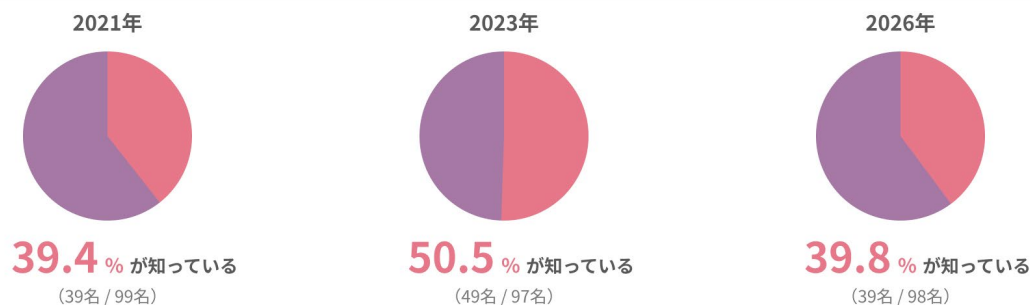
舌がんについて

■ 知っている ■ 知らない

「『舌が腫れた』を耳鼻咽喉科で治療できる症状として選択した人」のうち、舌がんが耳鼻咽喉科で治療できると知っている割合



「『舌が腫れた』を耳鼻咽喉科で治療できる症状として選択しなかった人」のうち、舌がんが耳鼻咽喉科で治療できると知っている割合

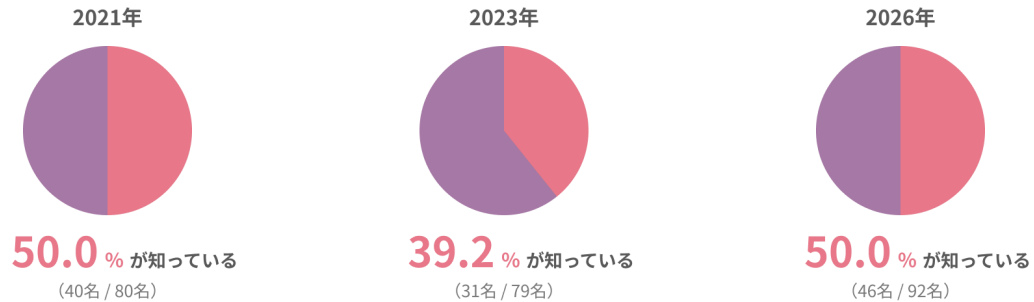


同様に、「首が腫れた」を選択した人（92名）のうち、甲状腺がんが耳鼻咽喉科で治療できることを知っていた人は46名（50.0%）であった一方、「首が腫れた」を選択しなかった人（108名）のうち甲状腺がんが同科で治療できることを知っていた人は29名（26.9%）であった。それらの症状を耳鼻咽喉科で治療できると考えない群では、考える群に比べて、がんが治療できることを知らない傾向が今回も確認され、この傾向は第1回、第2回調査と一致していた。

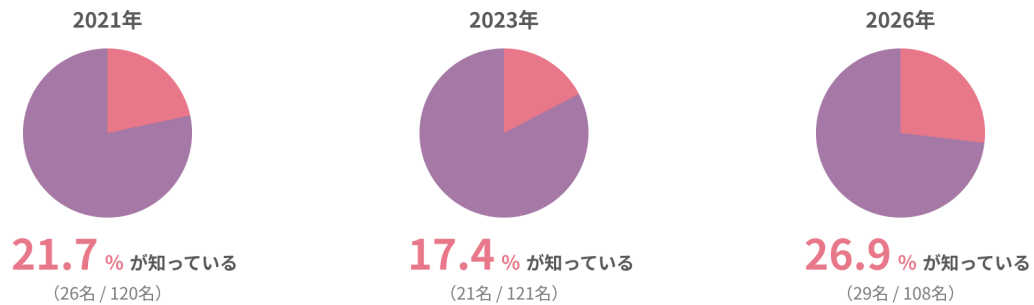
甲状腺がんについて

■ 知っている ■ 知らない

「『首が腫れた』を耳鼻咽喉科で治療できる症状として選択した人」のうち、甲状腺がんが耳鼻咽喉科で治療できると知っている割合



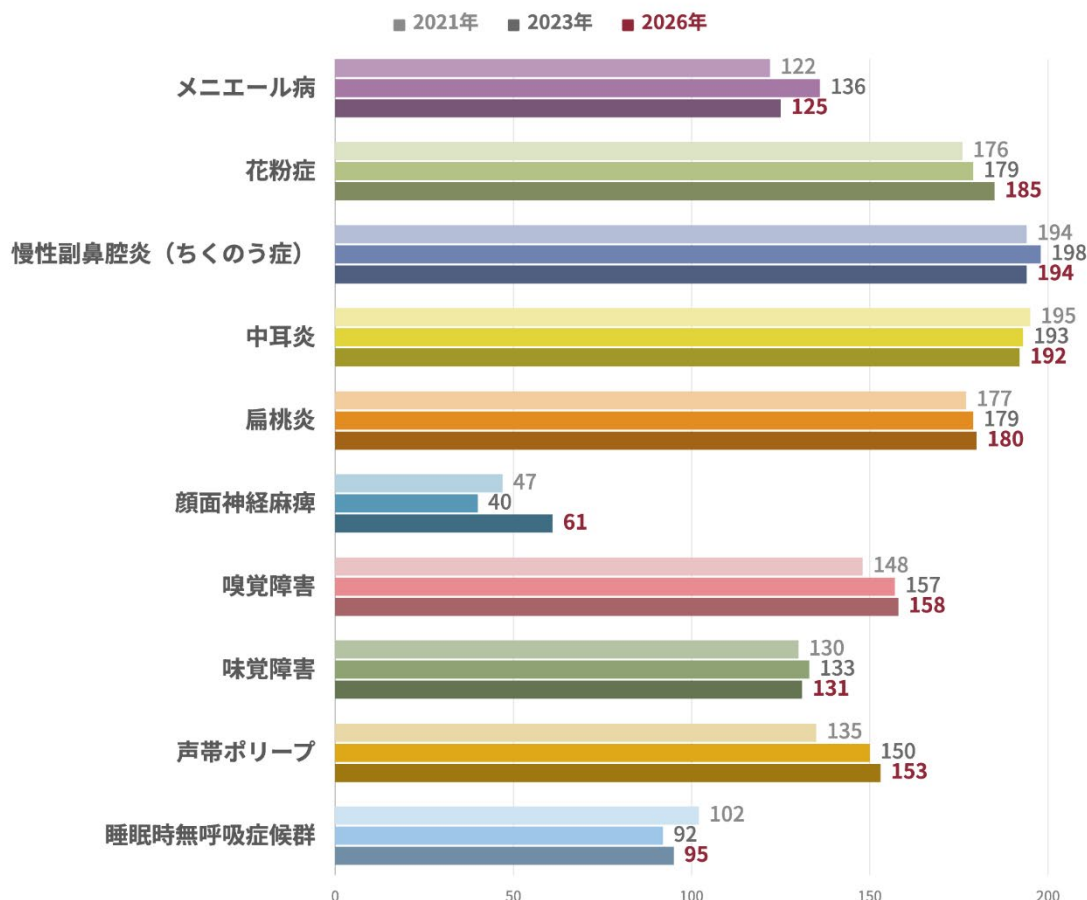
「『首が腫れた』を耳鼻咽喉科で治療できる症状として選択しなかった人」のうち、甲状腺がんが耳鼻咽喉科で治療できると知っている割合



舌や首の腫れなどの初期自覚症状が現れた際に「正しい受診先」である耳鼻咽喉科・頭頸部外科を想起できているか否かが、その後のがんの早期発見・専門治療へのアクセスにつながる可能性が示された。単に病名を知るだけでなく、「このような症状のときはここへ行く」という初期受診行動の重要性が示唆される結果となった。

Q

下記のうち、耳鼻咽喉科で治療ができると思われる「病気」をすべて選んでください。（複数選択可）



※ 調査対象：Medical Note会員（18歳以上・非医療従事者）n=200／複数選択可

耳鼻咽喉科が専門とする各種の病気についても同様に尋ねたところ、花粉症（92.5%）、慢性副鼻腔（びくう）炎（蓄膿〈ちくのう〉症）（97.0%）、中耳炎（96.0%）、扁桃（へんとう）炎（90.0%）、嗅覚障害（79.0%）、声帯ポリープ（76.5%）、味覚障害（65.5%）については理解度が高かった。一方、顔面神経麻痺（30.5%、2021年：23.5%、2023年：20.0%）は過去調査と比較して改善傾向にあるものの、依然として低い認識にとどまっていることが改めて確認された。睡眠時無呼吸症候群（47.5%、2021年：51.0%、2023年：46.0%）も改善がみられていない。また、メニエール病（62.5%、2021年：61.0%、2023年：68.0%）も継続的な啓発が必要な疾患として挙げられる。疾患によって認知度に差が見られ、継続的な啓発が必要な疾患は数多く存在することが示された。